

札幌医大薬徳院
木根川病院裏
八田三郎様名展



明治

正月十九日

於日落處見草書

子厚傳

卷之二

金



梓野仕候、是ヨリ様運走多々申奉事候、障前先度原ノ傳
申上候、三島一先生ト申久仁一甚五、錆、魯西卿也ノ事ヘコト有候
由ニテ、同都司使ノ事報有立候、私川此ノ事心中難程表
處在辰候、何テニスカワナク福事大為之軍ハセ底ル舊工因事候、今
回ノ件ニ付ナマ馬鹿也地金か出テ、他ニ因後エシハ可笑哉ヤ也
雅計傳トテ、一生盡命之付其笑矣トモ愚候、

次ニ先付執事更希望一件ニ付申上候矣、先付タテ一向喜高申リ夫レ
不申、ナニハ、一應内意見ノ程ヲ奉仰、大体自古ノ腹工物一筋
道立半候上、豈存ナシト申上候故、先付ハ不取放事
實タテ申上、眞内コトハ後廻シニ致候次第之復半候、

寅ノ内不敵ノ電報ハ「不擇國トテノ事、萬ノ四五年候、ソシハ行掛
上、其ムニ得ヌヨリ出テ之ん事候也」、此次ニ申上候、
一時ニ事半挂付ハ、彦那ノ主任ニ預ケ候事ハ、ハ断念乞候

忠先生、御立候ちまことに有り見ゆれど、アレへシタリ、此へ遷考る事
御嘗て、選擇り節を感憤一片、打キメ候。宣佈事トハ申サセ初要
スル。執事事。高利貸。手足キテ十九ニシテ、老衰モト相傳少く、
次第十六、手足ニサヘナシテ、矢張モ写ヒナシテナシ又者、次ニノ親、
翁母也。教と、弟一豊、次ノ子、黄ツヅキノシテ、自分、身ヲオトスコトナシ、
(身ナリ上ケルコトハ、自分、工面ニ狂りタれ)人ニ耻ヅルトモ無し。
自分、棄て、かうネハナヌト、一途ニ思ヒ达ニ展り先故、
トコソテニ主張し、次第スル(居ちて)、次第ニ度重候。然ル事、幸
カ不辛力、其時、猶もヨリ私ハ不適仕合トノ意味三、一
ノ下ニ排斥ヲ蒙ヒ、駄目トガ如ク、狼狽ニ度重候、
今日、執事更後場ヒ刻、ニケ文増設コトニ有ク、多分増員。
アルナシエトノ見地、序好ノ、主任が申吳シタノ次第(先づ度
付付候御片)。度重候、前回強ノ主張しん行持リヨリ、

今回ハ希望セヌトハ申更、サリトヨ。大阪ノ車、杯ハ一切日本車。方。
是れが後セテハ多モ可、其意見ナシテ、意見通ニシテ至るト友
事。内閣代、電報内通事ヲ承允。次第に御座候。

右様一頃事ニ有之、之ヲ申上ス以上、第ニ先生ノ御配慮死下ル
事ニ對し、エドカニカリテ、斯様一新規ナル奉呈シ持出シシテ已取
レ、金ナガタ又翁か、國閣达金ナガルシカレトモ取レ、長翁ナ葛西犯也
此様ニ取レ、誠ニ不本意ノ次第ニ付、早速左申上玉存候御有カ、
事ハ為メニ、何以故ノト申理ジミテシトヨ申上候失禮十
トヨ申上候失禮十
事、該務局内割ナサリ、御記官轉割室
等ノガタツ三、晚半付中セバ十時迄庭、家ニ附シ又二男去。四
日以來竟坐三ノ板瓦床、眠ニセ又起未、加之高月下向三更ニ
通シテ、泊止居アリ、公私漫遊、更遅延、而遅延ナ至ニ申候、
既し承認、而為ニ對シテ、家童安靜、送信ヲ固ニシコト、

非常ニ物心レノ有段階其間、物事ハ何アモ必心レナヤル仕組
チネハ不ヲト、コレナ御ヨリニテモ、ツクノ考ニ候、是モ仰ニシテ
難易至候。

却況、輜道更ハ、アシナ何トモ事無ヌ伊多ニ隣度、馬ノ馬、櫛本トヒ
思ル、八田三義ノ御者ニ、高ナ子御モトヨフモノ中ナシハ、クハ少々
ナル者ガム有ツル櫛乱ツヤラヌトモ限ヌト、シニハリ構ハナレスドシトモ、
土台石一トモノ砂利、片破レ位ニハナリニ度、其中後若クヌニ、
萬葉ケテ藏キ空モノト其劣良は取化位、極端ニ馬ノ馬ニシテ使
ヒ易しも人達ニアツトイハセテ自軍ニアカセ、十分仕事、力ナ出シテ
見度前半壁ニ腰置候、執走ミテ帝城ヘ上乗ノ行跡ナ上、息ナ
得ヌ為メテ、山宮ノ因反到、猶ノ左度意ニ至リ、茲ニ既ナニ申
上、おこ声ガ立ツニ腰ん持モト坐死既ニ正テ葬リ候、年既
歿候、何ナト内閣ノ急ナ要ニ火不レタスノ事ソ陳述候。好

トセヌ所ノ事ニ付申候

在拵サニ上申上候ハバ、詳細シテ之ニ存候ニ、既ニ遷延
氣消カヌ、乃上至ミテ待タシヌ如東、依テ以次申上候、はシ
ニ付事ニ及ハ又儀トゾ承ムトれニ候

先手乞申上候是、右事ノモ也、於角ノ自老寺橋候

敬具

四月十九日

高橋政和様上

八田先生
玉草下